

一般会計は、教育や福祉、道路整備など、市の行政運営の基本的な事業を行う会計です。

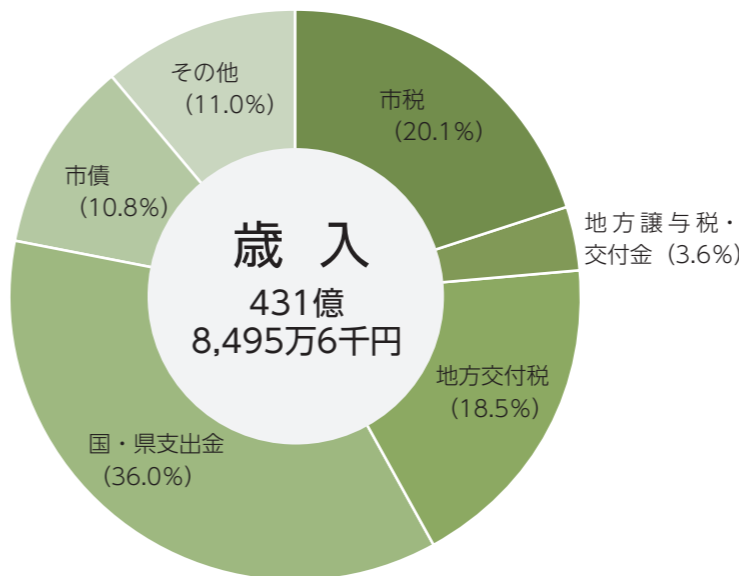
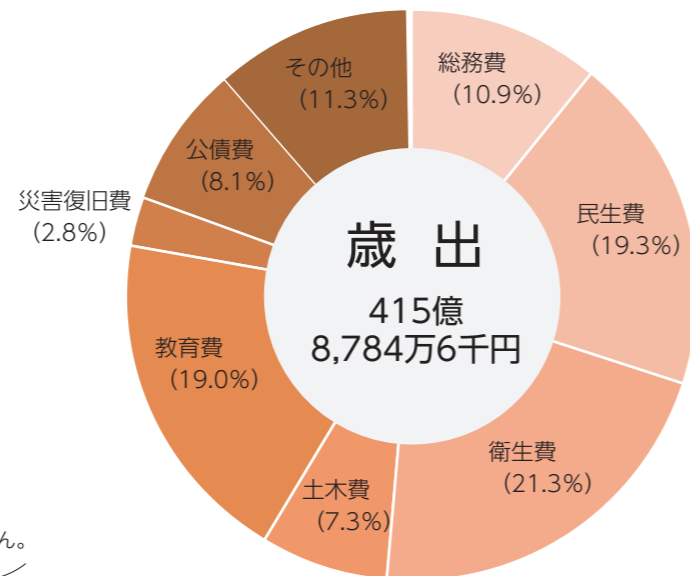


## 一般会計

### 一般会計

平成28年度の決算は、歳入総額431億8,495万6千円に対し、歳出総額415億8,784万6千円で、差引き15億9,711万円の「黒字」となりました。

なお、翌年度に繰り越す事業の財源3億4,648万円を差し引いた実質収支額は、12億5,063万円となり、平成29年度以降の財源として、各種事業への活用や積み立てを行います。



皆さんに納めていただいた税金が、どのように使われているのか、市の貯金や借入金ほどれくらいあるのかなどを知っていただくために、今月号では、平成28年度決算の概要と現在の財政状況をお知らせします。

# 平成28年度決算

### ■財政の健全化判断指標

指標	白河市	早期健全化基準 (黄色信号)	財政再生基準 (赤信号)
①実質赤字比率	赤字なし	12.62%	20%
②連結実質赤字比率	赤字なし	17.62%	30%
③実質公債費比率	9.7%	25%	35%
④将来負担比率	58.8%	350%	

- ① 一般会計を中心とした赤字の割合
- ② 一般会計、特別会計、企業会計の全ての会計の赤字の割合
- ③ 年間の借入金返済額の割合（3か年平均）
- ④ 将来の負担が見込まれる負債の割合

総務費	市税の徴収・庁舎の維持管理など	45億4,693万2千円
民生費	高齢者福祉や児童福祉、保育園運営、生活保護など	80億2,818万1千円
衛生費	各種検診や予防接種、除染事業、ごみ処理など	88億7,159万9千円
土木費	道路の舗装や維持補修、河川や公園の管理など	30億5,328万6千円
教育費	幼稚園、小・中学校の学校教育、社会教育や文化財の保護など	79億904万6千円
災害復旧費	災害によって生じた被害の復旧など	11億7,598万1千円
公債費	借入金の返済	33億5,653万9千円
その他	農林水産業費、消費費、商工費など	46億4,628万2千円

市税	市民税、固定資産税など	86億5,890万円
地方譲与税・交付金	国や県が徴収した税から一定の割合で配分される交付金	15億3,953万4千円
地方交付税	標準的な行政サービスを行うために必要な財源の不足分を、国が地方に配分する交付金	79億9,102万1千円
国・県支出金	特定の事業に対して国や県から支出される補助金など	155億5,087万3千円
市債	市の借入金	46億7,790万円
その他	使用料・手数料・繰入金・繰越金など	47億6,672万8千円

市の財政状況は、ホームページで公表しています。  
 本庁舎財政課 内2333



### ■1人・1世帯当たりの市税の負担と使われたお金

区分	市民1人あたり	1世帯あたり
市税の負担額	140,223円	358,191円
使われたお金 (うち、除染対策分)	673,476円 (119,574円)	1,720,354円 (305,445円)

※平成28年度末の住民基本台帳人口・世帯数で算出  
 ▷人口：61,751人 ▷世帯：24,174世帯

### 公営企業会計

公共利益のため、市が経営する公営企業の会計です。

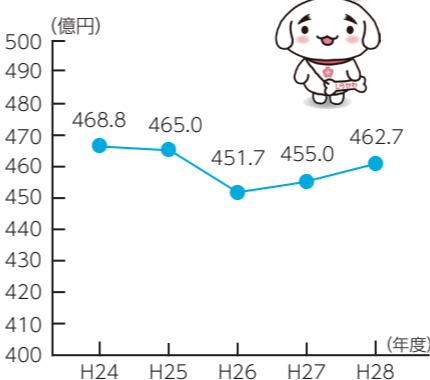
区分	収入	支出
水道事業		
収益的	13億6,876万9千円	11億6,469万円
資本的	4億725万9千円	8億9,084万1千円
工業用水道事業		
収益的	5,987万9千円	5,987万9千円
資本的	405万9千円	3,846万2千円

### 特別会計

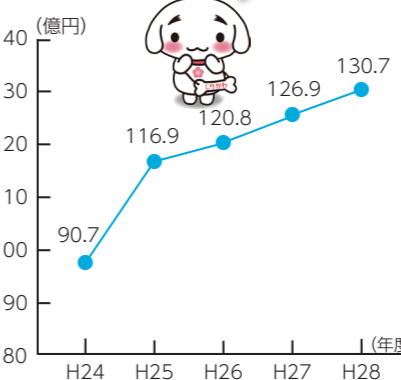
特別会計は、特定の収入で特定の事業を実施するための会計です。

区分	歳入決算額	歳出決算額
国有林野払受費	18万3千円	18万3千円
教育財産	60万3千円	60万3千円
小田川財産区	495万4千円	495万4千円
大屋財産区	66万5千円	66万5千円
樋ヶ沢財産区	510万2千円	510万2千円
土地造成事業	2,284万5千円	2,284万5千円
国民健康保険	77億2,487万2千円	74億3,459万2千円
後期高齢者医療	5億5,409万9千円	5億4,971万7千円
介護保険	54億8,888万8千円	51億3,402万7千円
地方卸売市場	1,970万3千円	1,970万3千円
公共下水道事業	18億7,818万6千円	18億7,818万6千円
農業集落排水事業	8億1,104万3千円	8億1,104万3千円
個別排水処理事業	8,016万7千円	8,016万7千円
合計	165億9,131万円	159億4,178万7千円

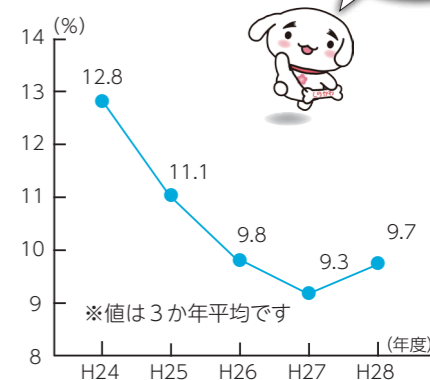
### 《市債・企業債の状況》



### 《基金の状況》



### 《実質公債費比率の推移》



学校や道路などは、次の世代を含め、使う人みんなが公平に負担していただくため、借入金を活用しています。平成28年度末の残高（臨時財政対策債を除く）は、462億7,206万円となり、計画的に借入と返済を行っています。

市の貯金に当たる「基金」は、安定した財政運営のため、積み立てや取り崩しを行っています。平成28年度は、全体で3億7,830万円の増となり、年度末における残高は130億7,074万円となっています。

借入金返済額の財政規模に占める割合を示す実質公債費比率は、3か年平均で9.7%となりました。また、市の「健全化判断指標」(P.11「財政の健全化判断指標」参照)は、いずれも国の基準値以内となり、健全な状態で推移しています。